

定例会資料：報告(2)
令和3年9月24日
教育研究所

令和3年度全国学力・学習状況調査における 秋田市の結果について

令和3年度全国学力・学習状況調査における秋田市の結果について

● 調査概要 ●

全国学力・学習状況調査は、文部科学省が、義務教育の機会均等と水準の維持向上の観点から、教育施策の成果と課題を検証し改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や改善に役立てることを目的として、全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に、平成19年度から継続して実施してきました。

今年度の調査は、令和3年5月27日に、国語と算数・数学の教科に関する調査と、生活習慣や学習環境等についての質問紙調査が行われました。

● 本市調査結果の概要 ●

【教科調査の概要「全般」】

- ・ 小学校6年生2,273名、中学校3年生1,991名が参加しました。
- ・ 国語、算数・数学の各領域ごとの平均正答率は、算数の「図形」を除き、全国平均を上回りました。
- ・ 無解答率は、小学校・中学校共に、全教科の全ての設問で全国平均を下回りました。

【教科調査の概要「国語」】

- ・ 小学校では、スピーチで用いる資料の説明に関する問題や、文章全体の構成をとらえ、内容を把握する問題の正答率が80%を上回りました。
- ・ 修飾と被修飾の関係をとらえる問題の正答率は53%、文章を要約する問題の正答率は34%でした。文の構成を理解することや、文章と図表を結び付けて読み、内容をとらえることなどに課題が見られます。
- ・ 中学校では、話し合いにおける発言の役割をとらえる問題や、質問の意図をとらえる問題の正答率が90%を上回りました。
- ・ 文章を書き直した意図をとらえる問題の正答率28%、登場人物の言動をもとに自分の考えをまとめる問題の正答率は23%でした。構成や展開を工夫して書くことや、文章中のもの見方や考え方が表れている部分をとらえることなどに課題が見られます。

【教科調査の概要「算数・数学」】

- ・ 小学校では、棒グラフから数量を読み取る問題や、条件に合う時刻を求める問題の正答率が90%を上回りました。
- ・ 直角三角形の面積を求める問題の正答率は49%、二等辺三角形を組み合わせた図形の面積を求める問題の正答率は45%でした。辺の関係を正確にとらえることや、図形を構成する要素に注目し、筋道を立てて説明することなどに課題があると考えられます。

令和3年度全国学力・学習状況調査における秋田市の結果について

- ・中学校では、グラフから条件にあてはまる座標を選択する問題の正答率は96%、ヒストグラムから度数を読み取る問題の正答率は87%でした。
- ・三角定規を重ねてできる四角形の性質について説明する問題の正答率は29%、2つの度数分布多角形を比較し、判断したことについて説明する問題の正答率は13%でした。図形の性質を数学的な表現を用いて説明することや、データの傾向をとらえ、判断の理由を用いて説明することなどに課題があると考えられます。

【児童生徒質問紙調査の概要】

〔自分自身について〕

- ・「自分には、よいところがあると思う」「将来の夢や目標を持っている」「人の役に立つ人間になりたいと思う」など、自分自身のよさを知り、向上心を持って生活している子どもの割合が、全国平均を上回っています。

〔人との関わりについて〕

- ・「人が困っているときは、進んで助けている」「友達と協力するのは楽しい」など、学校生活等において友だちと良好に関わっている子どもの割合が、全国平均を上回っています。

〔家庭生活について〕

- ・「毎日もしくはどちらかといえば毎日朝食を食べている」「家で自分で計画を立てて勉強をしている」など、基本的な生活習慣や、家庭での学習習慣を身に付けている子どもの割合が、全国平均を上回っています。

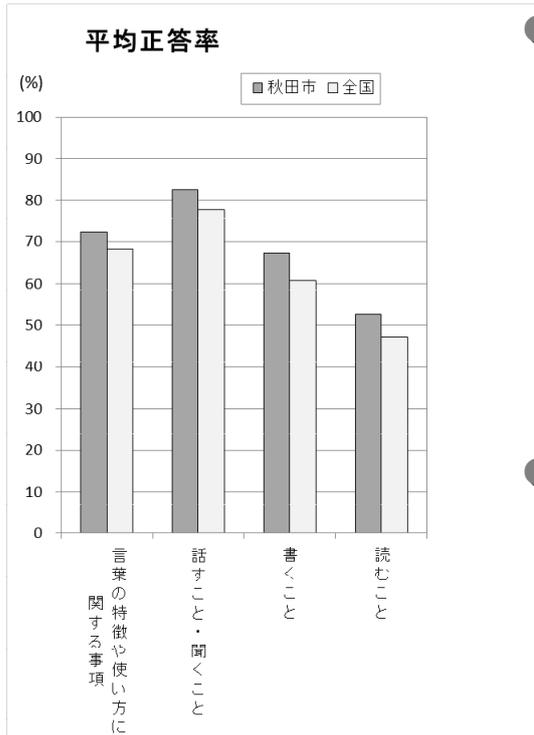
〔学習について〕

- ・「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」など、主体的に学習活動に取り組んでいる子どもの割合が、全国平均を上回っています。
- ・「学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために、週1回以上使用している」については、全国平均を下回っています。

〔休校中（令和2年の4～5月ごろ）の学習、生活について〕

- ・「去年（令和2年）の4～5月ごろ、計画的に学習を続けることができていた」「去年（令和2年）の4～5月ごろ、規則正しい生活を送っていた」など、休校中も規則正しい生活や学習の継続に努めた子どもの割合が、全国平均を上回っています。

小学校国語 領域ごとの調査結果の主な特徴 【令和3年度】



言葉の特徴や使い方に関する事項 ● 問題3

- ・「ころがって」「げんいん」を漢字で書く問題の正答率は80%を上回りました。
- ・文の中における修飾と被修飾の関係をとらえる問題の正答率は53%でした。誤答のうち、約9割が直前の語句や直後の語句を選択しており、文の構成を理解することに課題があると考えられます。

話すこと・聞くこと ● 問題1

- ・スピーチメモとスピーチの内容をもとに、話の構成を考える問題の正答率は83%でした。
- ・スピーチの際、資料を用いた理由について考える問題の正答率は80%、資料の説明に関する問題の正答率は86%でした。

書くこと ● 問題3

- ・文章の下書きを読み、構成についての説明として適切なものを選択する問題の正答率は69%でした。
- ・友達の見意見を参考に、下書きの一部を書き直す問題の正答率は65%でした。文章構成の意図をとらえることや、理由や根拠を明確にして書くことに課題があると考えられます。

読むこと ● 問題2

- ・文章の構成をとらえ、内容についての説明として適切なものを選択する問題の正答率は82%でした。
- ・資料から必要な情報を探し、整理してまとめる問題の正答率は42%、文章を要約する問題の正答率は34%でした。文章と図表を結び付けて内容をとらえることや、例をあげながらまとめることに課題があると考えられます。【問題例参照】

※正答例は、紙面の関係で省略します。
※問題文は、教育研究所のホームページに掲載しています。

【資料】の一部
また、しっかりとくつき簡単にはがすことができる面ファスナーは、宇宙でも使われています。地球のまわりを回る国際宇宙ステーションの中には無重力状態のため、物がうかびます。そこで活躍しているのが面ファスナーです。

【資料】の一部

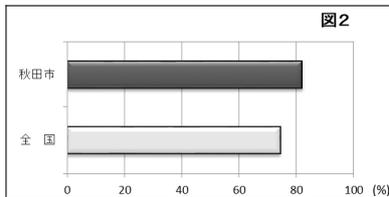
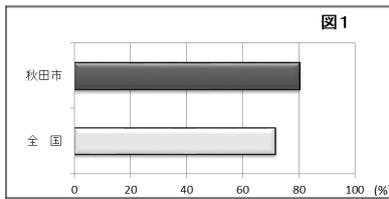
○「資料」から言葉や文を取り上げて書くこと。
○五十文字以上、七十文字以内にまとめて書くこと。

〈条件〉
○面ファスナーのよさを取り上げて、国際宇宙ステーションの中で使われる方について書くこと。

【課題となっている問題例】(問題部分のみ)
② 四 相川さんは、【資料】を読み、面ファスナーが宇宙でも使われていることについてまとめています。面ファスナーは、国際宇宙ステーションの中でどのように使われていますか。次の条件に合わせて書きましよう。



質問紙調査から「国語の学習について」



「言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりしている」と回答した児童の割合は87%で、全国平均を5ポイント上回っています。

「目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりしている」と回答した児童の割合は80%で、全国平均を9ポイント上回っています(図1)。

「目的に応じて文章を読み、感想や考えを持ったり、自分の考えを広げたりしている」と回答した児童の割合は82%で、全国平均を8ポイント上回っています(図2)。

小学校国語「本調査(ペーパーテスト)では測れない学力の状況」

本調査(ペーパーテスト)では測れない学力として、学習に対する意欲や関心に加え、自分の考えを分かりやすく話す力、話題に沿って話し合う力、音読や朗読する力など、音声による表現力があります。

各校では、子どもたちに身に付けさせたい力を明確にするとともに、課題の提示を工夫したり、効果的な言語活動を設定したりしており、子どもたちが意欲を持って学習に臨んでいます。また、詩歌などの音読を通して、言葉の響きやリズムを感じたり、自分の思いを表現したりするなど、表現する楽しさを味わいながら学習活動に取り組む子どもたちの姿が見られます。

一方、聞き手を意識して表現を工夫することや、話合いの展開に沿って、自分の意見を述べることなどについては、十分とは言えない状況にあります。

学習指導改善のための今後の方策

●調査結果から●

「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、語句の役割や語句相互の関係に気を付けて表現したりする学習を取り入れるなど、文や文章の中で正しく使うことができるような指導の充実を図ります。

「話すこと・聞くこと」については、相手や目的を意識して表現の仕方や資料の使い方について検討する活動を通して、自分の考えを分かりやすく伝える力を高める指導の充実を図ります。

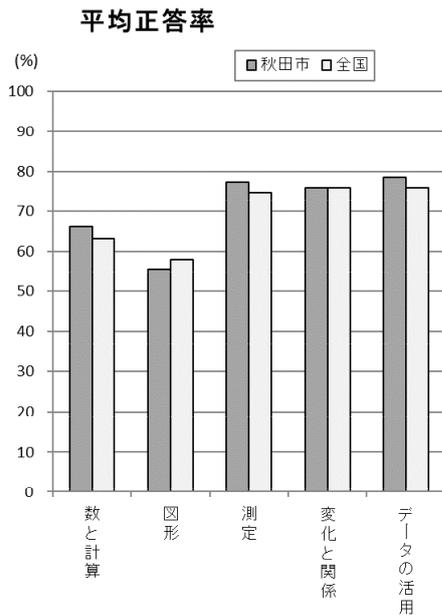
「書くこと」については、文章の構成や表現の仕方について考える活動を通して、目的や意図に応じて分かりやすく書く力を高める指導の充実を図ります。

「読むこと」については、文章と図表等を結び付けて読み、必要な情報を整理したり、自分の考えをまとめたりする活動を通して、目的や状況に応じて内容を的確に読み取ることができるような指導の充実を図ります。

●本調査では測れない学力の状況から●

相手意識を明確にした上で、効果的な伝え方を考えたり、話合いにおける発言を取り上げ、自分の考えと比較したりする場を取り入れるなど、表現する力を一層高めることができるような指導の充実を図ります。

小学校算数 領域ごとの調査結果の主な特徴 【令和3年度】



● 数と計算 ● 問題 1、4

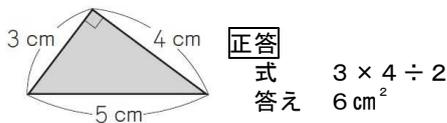
- 23個のボールを6個ずつ箱に入れたときに必要となる箱の数を求める問題の正答率は84%でした。
- 8人に4Lのジュースを等しく分けるときに一人分の量を求める問題の正答率は55%でした。被除数や除数にあたる数を判断して式に表したり、商の意味を考えたりすることに課題があると考えられます。

● 図形 ● 問題 2

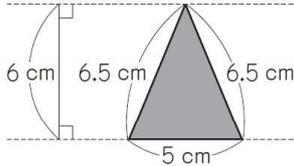
- 直角三角形を組み合わせた図形の面積について、正しいものを選択する問題の正答率は73%でした。
- 3辺の長さが示された直角三角形の面積を求める問題の正答率は49%、二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積を求める問題の正答率は45%でした。辺の関係を正確にとらえることや、図形を構成する要素に注目しながら筋道を立てて説明することに課題があると考えられます。【問題例参照】

【課題となっている問題例】 2 図形の構成の仕方に着目した図形の軽量についての考察 (三角形や四角形の面積)

- (1) 図の直角三角形の面積は何 cm^2 ですか。求める式と答えを書きましょう。

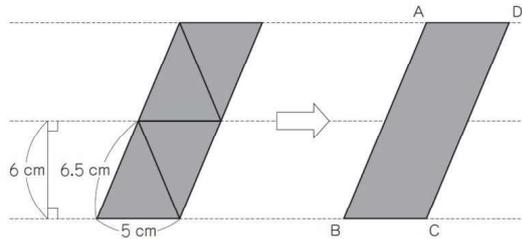


- (3) 次のような二等辺三角形があります。



上の図の二等辺三角形を4つ使い、次のように、同じ長さの辺どうしを合わせて、平行四辺形ABCDをつくりました。

平行四辺形の面積の公式を使って、平行四辺形の面積を求めます。



辺BCを底辺としたときの面積の求め方を、式や言葉を使って書きましょう。そのとき、平行四辺形ABCDの高さをどのように求めたのかがわかるようにしましょう。また、平行四辺形ABCDの面積が何 cm^2 になるのかも書きましょう。

正答例 辺BCを底辺としたとき、高さは $6 \times 2 = 12$ で 12 cm となります。平行四辺形ABCDの面積は、 $5 \times 12 = 60$ で、 60 cm^2 です。

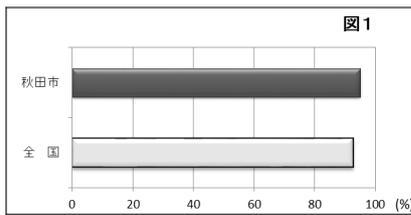
● 測定、変化と関係 ● 問題 1、2

- 条件に合う時刻を求める問題の正答率は91%でした。
- 道のりと時間をもとに、1分あたりに進む道のり(速さ)について、正しいものを選択する問題の正答率は55%でした。速さを求める除法の式や、商が表す意味を理解することに課題があると考えられます。

● データの活用 ● 問題 3

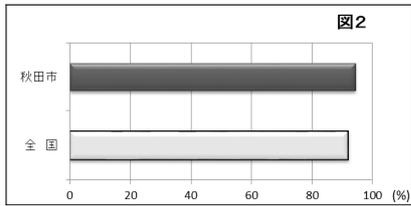
- 棒グラフから、数量を読み取る問題の正答率は96%、項目間の関係を読み取る問題の正答率は92%でした。
- 複数の帯グラフを比較し、示された項目の割合を求める問題の正答率は57%でした。データの特徴や傾向をとらえ、自分の考えをまとめることに課題があると考えられます。

質問紙調査から「算数の学習について」



「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」と回答した児童の割合は95%で、全国平均を3ポイント上回っています（図1）。

「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いてる」と回答した児童の割合は94%で、全国平均を3ポイント上回っています（図2）。



「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えている」と回答した児童の割合は82%で、全国平均を8ポイント上回っています。

小学校算数「本調査(ペーパーテスト)では測れない学力の状況」

本調査（ペーパーテスト）では測れない学力として、学ぶ意欲などの興味・関心に関するものや、自分の考えを伝える力、相手の考えを聞き取る力などがあります。

各校では、導入場面において、実生活と関連させた課題を設定したり、驚きや疑問が生じるような活動を取り入れたりするなどの工夫をされており、子どもたちは意欲的に学習に取り組んでいます。また、互いの考えを伝え合ったり、意見を練り合ったりする場面では、教師が適切に関わることにより、自分の考えの変容を実感している子どもの姿が見られます。

一方、グループで話し合う場面においては、時間は確保されているものの、思考の深まりが十分でない子どもの姿も見られます。

学習指導改善のための今後の方策

●調査結果から●

「数と計算」では、除法が用いられる場面を式に表したり、式や商の意味を読み取ったりする活動の充実を図ります。

「図形」では、図形を構成する要素に着目し、構成の仕方について考える活動を取り入れた上で立式するなど、過程を大切にされた指導の工夫を図ります。また、面積の求め方などについて筋道立てて説明する力を高めることができるよう、具体物を用いた図形の構成や分解、図形を書いたり確かめたりする活動などを通して、図形の感覚を豊かにし、その性質の理解を深める指導を重視します。

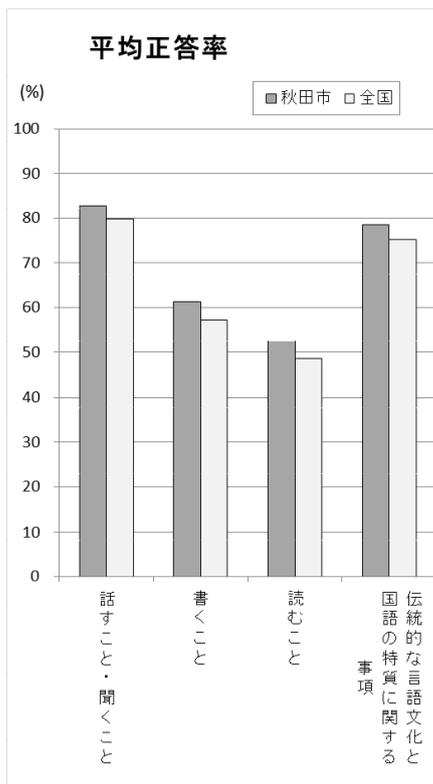
「測定、変化と関係」では、伴って変わる2つの数量に注目し、その関係について、表や式、グラフなどを用いて考察する活動の充実を図ります。

「データの活用」では、データの特徴や傾向をとらえ、自分の考えをまとめる活動の充実を図ります。

●本調査では測れない学力の状況から●

話し合い活動において、話し合う目的を明確にするとともに、考え方の共通点や相違点に注目しながら比較・検討したり、既習事項と関連付けながら分類・整理したりできるような手立てを講じるなど、子どもたちの学びが一層深まるような工夫をします。また、新たな問題解決の場面において、既習事項を適用する機会を取り入れるなど、身に付いた力を実感し、算数のよさを感じることができるよう指導の充実を図ります。

中学校国語 領域ごとの調査結果の主な特徴 【令和3年度】



● 話すこと・聞くこと ● 問題 1

- ・話し合いにおける発言の役割について適切なものを選択する問題の正答率は93%、質問の意図をとらえる問題の正答率は94%でした。
- ・話し合いの話題や方向を踏まえて、自分の考えをまとめる問題の正答率は61%でした。目的や場面に応じて話し合い、自分の考えをまとめることに課題があると考えられます。

● 書くこと ● 問題 2、4

- ・意見文の構成の工夫について、自分の考えを書く問題の正答率は79%、電子メールに伝えたいことを書き加える問題の正答率は77%でした。
- ・意見文の下書きを読み返し、書き直した意図として適切なものを選択する問題の正答率は28%でした。段落相互の関係をとらえることに課題があると考えられます。

● 読むこと ● 問題 3

- ・登場人物の言動の意味をとらえ、文章中から表現を抜き出す問題の正答率は74%でした。
- ・登場人物の言動をもとに自分の考えをまとめる問題の正答率は23%でした。誤答のうち、約8割が登場人物の行動の様子にあたる部分を引用せずに答えており、条件に沿ってまとめたり、ものの見方や考え方が表れている部分をとらえたりすることに課題があると考えられます。【問題例参照】

● 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 ● 問題 4

- ・文中の語句の意味を選択する問題の正答率は80%でした。
- ・「伸ばし」「詳細」の読み方を答える問題の正答率は90%を上回りました。

- ・「行く」の謙譲語について答える問題の正答率は43%でした。敬語に関する知識をもとに適切な言葉づかいをすることに課題があると考えられます。

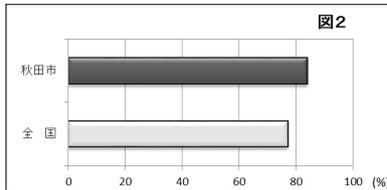
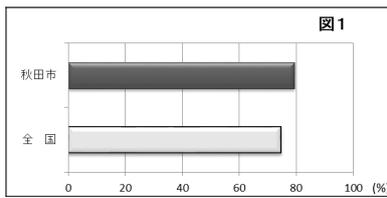
③【課題となっている問題例】(問題部分のみ) 文学的な文章を読む(「吾輩は猫である」)

四 【紹介】に「線部」を評する」とありますが、【文章の一部】では、「吾輩」は「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしていますか。また、あなたは、そのような「吾輩」の接し方をどう思いますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。
なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

- 条件1 【文章の一部】から、「吾輩」が「黒」を評価している表現を引用した上で、「吾輩」が「黒」にどのような接し方をしていることが分かるのかを書くこと。
条件2 条件1のような「吾輩」の接し方について、あなたの考えを具体的に書くこと。

※正答例は、紙面の関係で省略します。
※問題文は、教育研究所のホームページに掲載しています。

質問紙調査から「国語の学習について」



「言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりしている」と回答した生徒の割合は87%で、全国平均を6ポイント上回っています。

「目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり表現を工夫して書いたりしている」と回答した生徒の割合は79%で、全国平均を5ポイント上回っています（図1）。

「目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりしている」と回答した生徒の割合は84%で、全国平均を7ポイント上回っています（図2）。

中学校国語「本調査(ペーパーテスト)では測れない学力の状況」

本調査（ペーパーテスト）では測れない学力として、学習に対する意欲や関心に加え、自分の考えを分かりやすく話す力、話題に沿って話し合う力、音読や朗読する力など、音声による表現力があります。

各校では、考えるための視点を明示したり、目的を明確にした学び合いの場を工夫したりしており、子どもたちは意欲を持って学習に臨んでいます。また、詩歌や物語を読み、場面の様子を思い浮かべたり、作者の思いにふれたりするなど、表現のおもしろさを味わいながら学習活動に取り組む子どもたちの姿が見られます。

一方、相手の意見を踏まえて質問したり、互いの発言を生かして考えをまとめたりすることなどについては十分とは言えない状況にあります。

学習指導改善のための今後の方策

●調査結果から●

「話すこと・聞くこと」については、互いの発言の意図や効果を検討し合う活動を通して、目的に沿って話し合い、自分の考えを広げることができるような指導の工夫を図ります。

「書くこと」については、書いた文章を互いに読み合い、表現の仕方や具体例の示し方などについて吟味する活動を通して、目的や意図に応じて分かりやすく書く力を高める指導の充実を図ります。

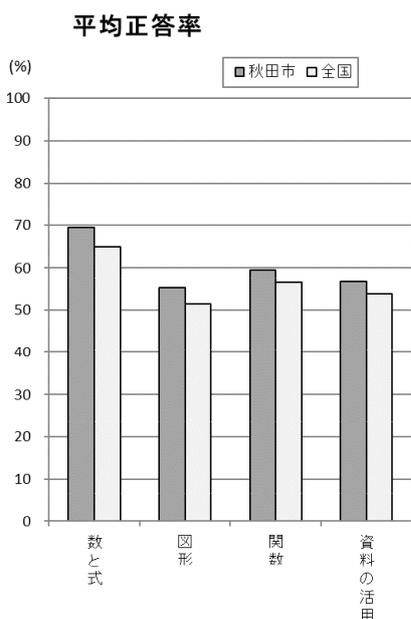
「読むこと」については、登場人物の言動や、作品に表れたものの見方等について、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動を通して、読む力を高める指導の充実を図ります。

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、具体的な相手や場面を設定して敬語の使い方を考える活動を取り入れるなど、日常生活と各教科等の学習を関連させた指導の工夫を図ります。

●本調査では測れない学力の状況から●

話し手の意図をとらえ、適切に質問する力や、相手の立場や意図を踏まえて話し合う力を高めることができるような指導の充実を図ります。また、互いの考えを吟味したり、根拠の妥当性を検討したりする過程を大切に指導の工夫を図ります。

中学校数学 領域ごとの調査結果の主な特徴 【令和3年度】



● 数と式 ● 問題 1、2、6

- 文字を用いた式の加法と減法の計算の正答率は81%でした。
- 図に示された4つの数の和に成り立つ性質について説明する問題の正答率は34%でした。目的に応じて式を変形することや、その式の意味を事象に即して説明することに課題があると考えられます。

● 図形 ● 問題 3、9

- 中心角が 60° の扇形の弧の長さを求める問題の正答率は73%でした。
- 高さの等しい二種類の三角定規を重ねてできる四角形の性質について説明する問題の正答率は29%でした。平行線や角の性質の理解をもとに、図形の性質を数学的な表現を用いて説明することに課題があると考えられます。

● 関数 ● 問題 4、7

- 砂時計の砂の重さと、砂が落ちきるまでの時間の関係を表したグラフについて、条件にあてはまる座標を選択する問題の正答率は96%でした。
- 砂時計の砂の重さと、砂が落ちきるまでの時間の関係から、示された時間をはかるために必要な砂の重さを求める方法を説明する問題の正答率は31%でした。2つの数量から関数関係を見だし、表や式、グラフなどを用いて説明することに課題があると考えられます。

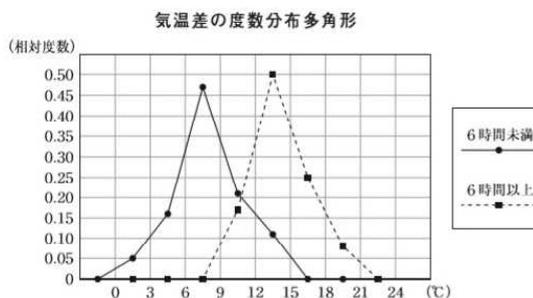
● 資料の活用 ● 問題 5、8

- 反復横とびの記録のデータから、中央値を求める問題の正答率は86%でした。
- 気温差を表したヒストグラムから、示された階級の度数を読み取る問題の正答率は87%でした。
- 2つの度数分布多角形の特徴を比較し、日照時間と気温差の関係について説明する問題の正答率は13%でした。データの傾向をとらえ、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題があると考えられます。【問題例参照】

【課題となっている問題例】

気温差の度数分布表

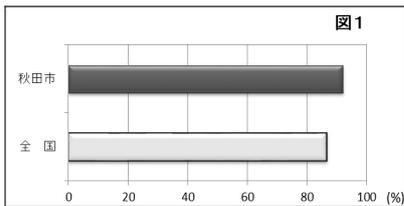
気温差(℃)	6時間未満		6時間以上	
	度数(日)	相対度数	度数(日)	相対度数
以上 未満				
0 ~ 3	1	0.05	0	0.00
3 ~ 6	3	0.16	0	0.00
6 ~ 9	9	0.47	0	0.00
9 ~ 12	4	0.21	2	0.17
12 ~ 15	2	0.11	6	0.50
15 ~ 18	0	0.00	3	0.25
18 ~ 21	0	0.00	1	0.08
合計	19	1.00	12	1.00



(3) 桃花さんは、前ページの気温差の度数分布表をもとに、横軸を気温差、縦軸を相対度数として度数分布多角形(度数折れ線)に表しました。

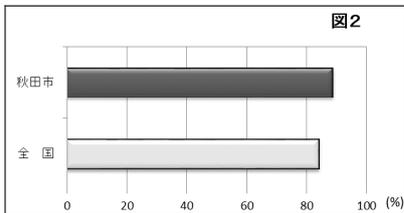
気温差の度数分布多角形から、「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、気温差の度数分布多角形の2つの度数分布多角形の特徴を比較して説明しなさい。

質問紙調査から「数学の学習について」



「数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている」と回答した生徒の割合は92%で、全国平均を6ポイント上回っています(図1)。

「数学の勉強は大切だ」と回答した生徒の割合は89%で、全国平均を5ポイント上回っています(図2)。



「数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えている」と回答した生徒の割合は62%で、全国平均を11ポイント上回っています。

中学校数学「本調査(ペーパーテスト)では測れない学力の状況」

本調査(ペーパーテスト)では測れない学力として、学ぶ意欲などの興味・関心に関するものや、自分の考えを伝える力、相手の考えを聞き取る力などがあります。

各校では、導入場面において実生活と関連させた課題を設定したり、思考を促すための教具を準備したりするなどの工夫をしており、子どもたちは意欲的に学習に取り組んでいます。また、多様な考えを比較・検討する場面では、視点の提示や思考の流れの可視化などの教師の手立てにより、自分の考えの深まりを実感している子どもの姿が見られます。

一方、新たな課題に取り組む場面では、既習事項を発展させて考えることができなかつたり、図や表などを用いて自分の考えをまとめることができなかつたりする子どもの姿も見られます。

学習指導改善のための今後の方策

●調査結果から●

「数と式」では、数の性質を考える場面において、目的に応じて式を変形することや、式の意味を事象に即して説明する活動の充実を図ります。

「図形」では、基本的な図形の性質をもとに、新たに見いだした性質について数学的な表現を用いて説明する活動の充実を図ります。

「関数」では、二つの数量から関数関係を見だし、表・式・グラフなどを用いて数学的に表現する活動の充実を図ります。

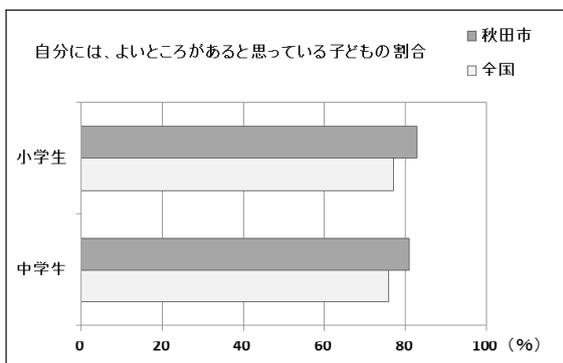
「資料の活用」では、代表値や資料の散らばりに着目してデータの傾向を的確にとらえ、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する活動の充実を図ります。

●本調査では測れない学力の状況から●

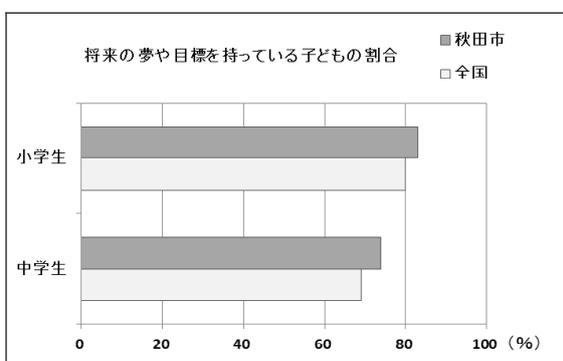
学習内容と既習事項との関連を想起させるような導入を工夫したり、共通点や相違点、簡易性や発展性などに着目した分類・整理の場面を設定するなど、子ども一人ひとりの思考や理解が深まるような指導の充実を図ります。また、子どもたちの学習意欲が一層向上するような単元や授業の構成、展開の工夫を行うとともに、図や表、式やグラフを用いて考えることの有用性など、数学のよさを感じることができるような指導の充実を図ります。

児童生徒質問紙調査の結果から【令和3年度】

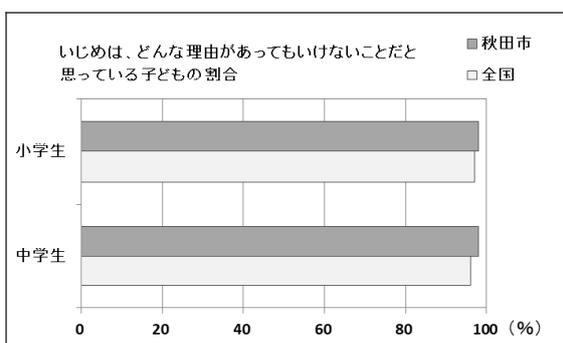
● 自分自身について ●



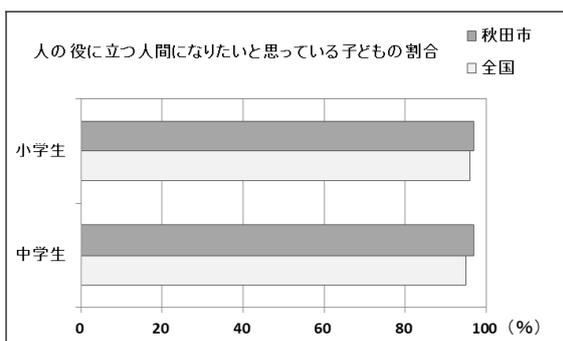
「自分には、よいところがあると思う」と回答した子どもの割合は、小学生で83%、中学生では81%となっており、全国平均を小学生は6ポイント、中学生では5ポイント上回っています。



「将来の夢や目標を持っている」と回答した子どもの割合は、小学生で83%、中学生では74%となっており、全国平均を小学生は3ポイント、中学生では5ポイント上回っています。



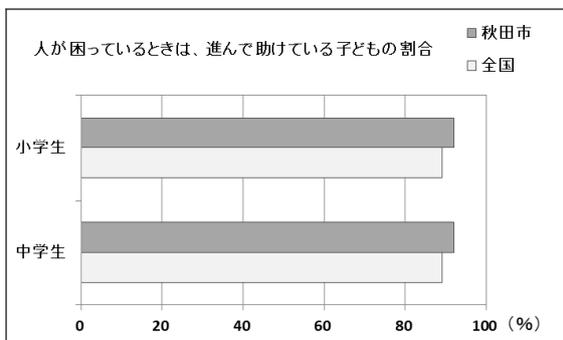
「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した子どもの割合は、小学生・中学生共に98%となっており、全国平均を小学生は1ポイント、中学生では2ポイント上回っています。



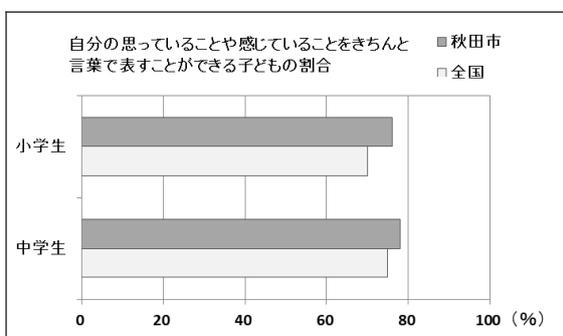
「人の役に立つ人間になりたいと思う」と回答した子どもの割合は、小学生・中学生共に97%となっており、いずれも全国平均を2ポイント上回っています。

児童生徒質問紙調査の結果から【令和3年度】

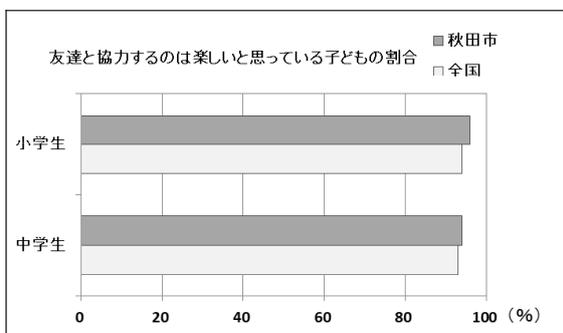
● 人との関わりについて ●



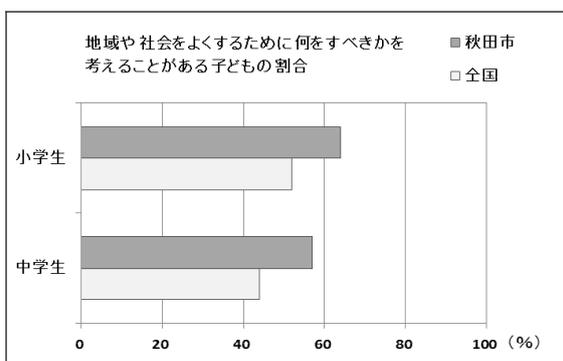
「人が困っているときは、進んで助けている」と回答した子どもの割合は、小学生・中学生共に92%となっており、いずれも全国平均を3ポイント上回っています。



「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができる」と回答した子どもの割合は、小学生で76%、中学生では78%となっており、全国平均を小学生は6ポイント、中学生では2ポイント上回っています。



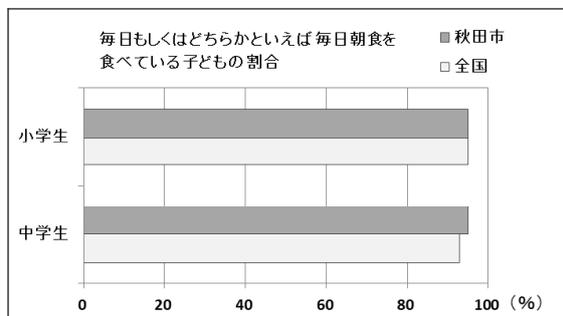
「友達と協力するのは楽しい」と回答した子どもの割合は、小学生で96%、中学生では94%となっており、全国平均を小学生は2ポイント、中学生では1ポイント上回っています。



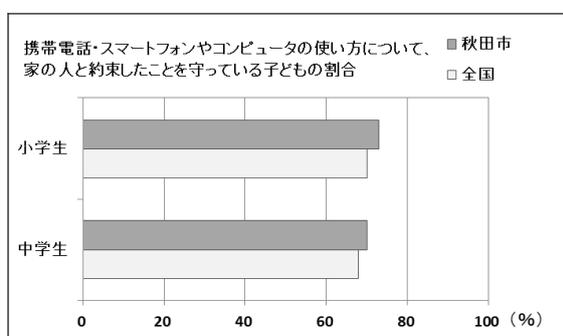
「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」と回答した子どもの割合は、小学生で64%、中学生では57%となっており、全国平均を小学生は12ポイント、中学生では13ポイント上回っています。

児童生徒質問紙調査の結果から【令和3年度】

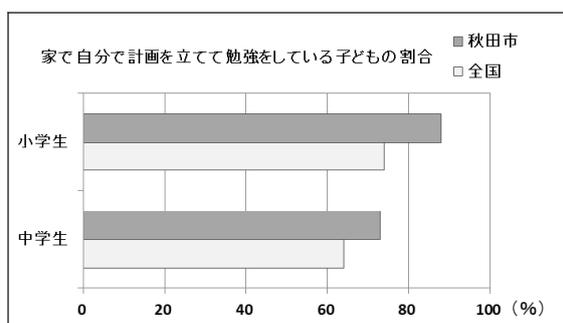
● 家庭生活について ●



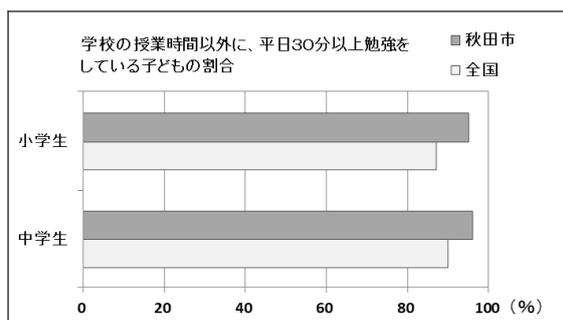
「毎日もしくはどちらかといえば毎日朝食を食べている」と回答した子どもの割合は、小学生・中学生共に95%となっており、小学生では全国平均と同じ割合、中学生では3ポイント上回っています。



「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている」と回答した子どもの割合は、小学生で73%、中学生では70%となっており、全国平均を小学生は3ポイント、中学生では2ポイント上回っています。



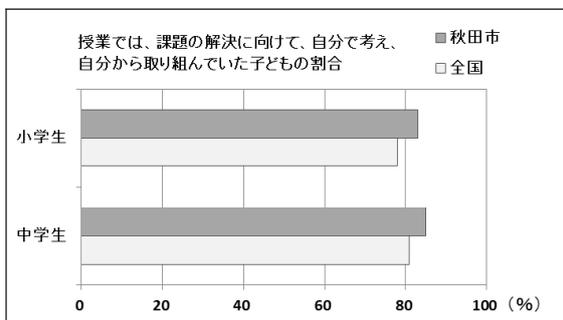
「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と回答した子どもの割合は、小学生で88%、中学生では73%となっており、全国平均を小学生は14ポイント、中学生では10ポイント上回っています。



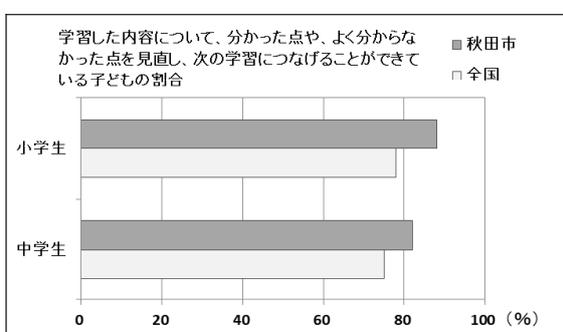
「学校の授業時間以外に、平日30分以上勉強をしている」と回答した子どもの割合は、小学生で95%、中学生では96%となっており、全国平均を小学生は8ポイント、中学生では6ポイント上回っています。

児童生徒質問紙調査の結果から【令和3年度】

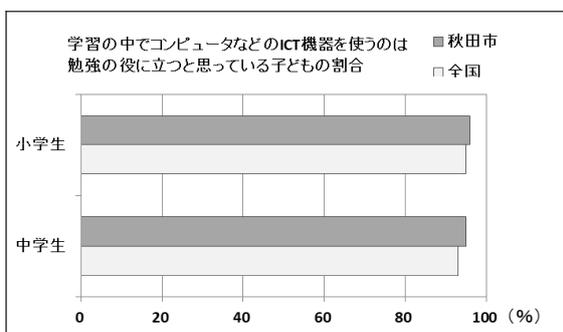
● 学習について ●



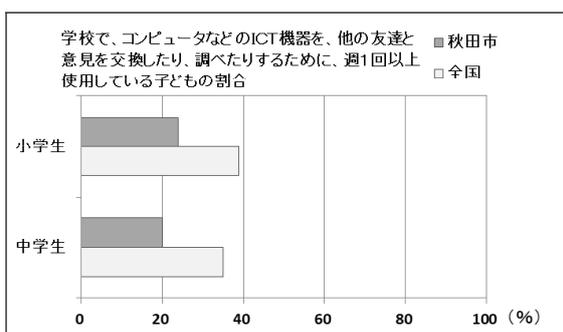
「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答した子どもの割合は、小学生で83%、中学生では85%となっており、全国平均を小学生は5ポイント、中学生では4ポイント上回っています。



「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる」と回答した子どもの割合は、小学生で88%、中学生では82%となっており、全国平均を小学生は9ポイント、中学生では7ポイント上回っています。



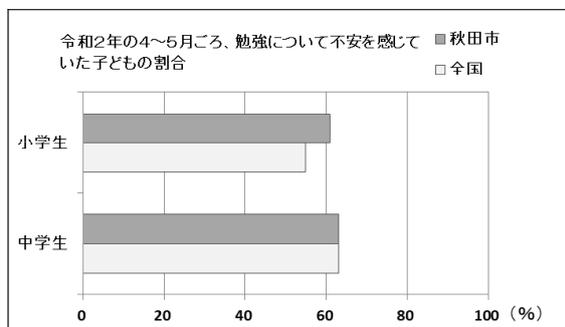
「学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う」と回答した子どもの割合は、小学生で96%、中学生では95%となっており、全国平均を小学生は1ポイント、中学生では2ポイント上回っています。



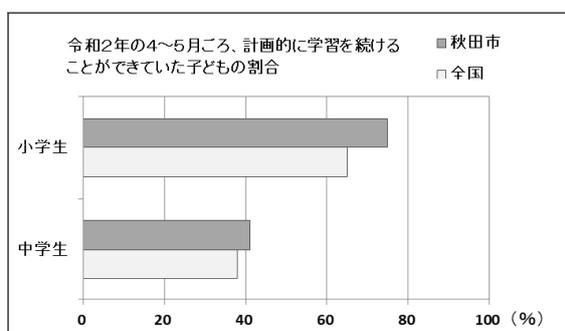
「学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために、週1回以上使用している」と回答した子どもの割合は、小学生で24%、中学生では20%となっており、全国平均を小学生・中学生共に15ポイント下回っています。

児童生徒質問紙調査の結果から【令和3年度】

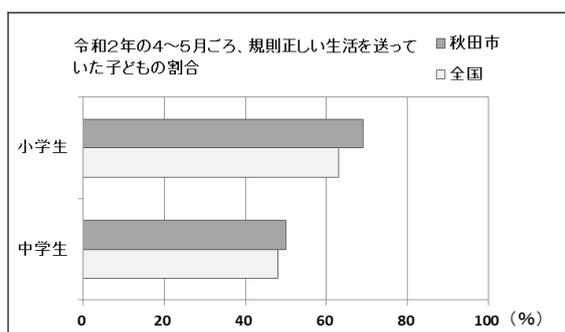
● 休校中（令和2年の4～5月ごろ）の学習、生活について ●



「去年（令和2年）の4～5月ごろ（新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が臨時休校していた時期）、勉強について不安を感じていた」と回答した子どもの割合は、小学生で61%、中学生では63%となっており、全国平均を小学生は5ポイント上回り、中学生では同じ割合となっています。



「去年（令和2年）の4～5月ごろ（新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が臨時休校していた時期）、計画的に学習を続けることができていた」と回答した子どもの割合は、小学生で75%、中学生では41%となっており、全国平均を小学生は10ポイント、中学生では3ポイント上回っています。



「去年（令和2年）の4～5月ごろ（新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が臨時休校していた時期）、規則正しい生活を送っていた」と回答した子どもの割合は、小学生で69%、中学生では50%となっており、全国平均を小学生は6ポイント、中学生では2ポイント上回っています。

